

異学年による生活科・総合的な学習の時間

ケー かみしょう エヌ エー
K (上小) N (ネイチャー) A (アドベンチャー)

1 単元について

本校は、自然環境に恵まれた学校である。様々な鳥のさえずりが毎日聞こえ、花や野菜などがふんだんに植えられた充実した学級園。学級園の周りを飛ぶチョウやトンボなどの虫たち。春はいろとりどりの花が咲く校舎のまわりや運動場。この豊かな学校の自然を題材に課題を設定し、学校で見られる植物や生き物を探索し、調べたことをまとめ交流することで、今まであまり目を向けていなかった本校ならではの自然のよさや特色に気づき、学校に対する愛着や誇りにつながっていきと考え設定した単元である。

今年度は、昨年度行った「科学の芽育成講座」の活動を生かし、カリキュラム・マネジメントの視点から単元計画を見直し、異学年集団での学び「上小ネイチャーアドベンチャー (KNA)」として年間全3回6時間(当初計画は8時間)行った。「上小の自然の宝さがしをしよう」という課題を設定し、なかよし班(縦割り班)で活動することで小規模校でのメリットを生かせると考えた。また、各教科で身につけた知識や技能をこの単元で活用したり、この単元の体験活動や学習成果が各教科等に生かされたりすることを意識させることで、本校の目指す資質・能力を育むことができると考えた。

2 単元の目標

- 異学年集団での学びを育てる。
- 季節ごとの動植物を探し、名前や特徴を調べ、自然の変化を感じ取ったり調べたりする。
- 学校周辺の自然に親しんだり採集をしたりする活動を通して、上黒瀬小の自然の魅力を再発見し、学校への愛着をもつことができるようにする。

3 目指す資質・能力の児童の具体的な姿

資質・能力	第1・2学年	第3・4学年	第5・6学年
主体性	学校の自然のいいところ見つけに関心をもつことができる。	学校の自然のいいところ見つけに見通しをもち、粘り強く取り組んでいる。	学校の自然のいいところ見つけに見通しをもち、よりよい解決に向けて粘り強く取り組んでいる。
コミュニケーション能力	人の意見を最後まで聞いて自分の意見をいうことができる。	相手の意見を受け止めて話し合い、活動に取り組んでいる。	異なる意見や考えを受け入れ、みんなで協力して話し合いや活動に取り組んでいる。
郷土愛	学校の自然のよさに気づき親しみをもっている。	学校の自然のよさを知り、大切にしようとしている。	学校の自然のよさを知り、学校の誇りとして大切にしようとしている。

4 単元計画（全6時間）

0次として各学年関連教科や必要な知識・機能について学習する。

	学習活動	評価規準	評価方法
KNA第1回	課題の設定 <ul style="list-style-type: none"> ・上黒瀬小学校の自然の宝さがしとして、初夏の学校の自然についてどんな植物や生物がいるのか課題をもつ。 		<ul style="list-style-type: none"> ・行動観察 ・発言内容
	情報の収集 <ul style="list-style-type: none"> ・なかよし班を生物班・植物班に分け、それぞれが探索し、学校の初夏の自然の魅力を見つける。 	主体性	<ul style="list-style-type: none"> ・行動観察 ・発言内容
	整理・分析 <ul style="list-style-type: none"> ・見つけた生物・植物について調べ、模造紙にまとめる。 ・生物班は生物班同士で、植物班は植物班同士で発表しあう。 	コミュニケーション力	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークシート ・行動観察 ・発言内容
KNA第2回	課題の設定 <ul style="list-style-type: none"> ・上黒瀬小学校の自然の宝探しとして、秋の学校の自然についてどんな植物や生物がいるのか課題をもつ。 (各班で作戦会議を行い、めあてを設定する。) 		
	情報の収集 <ul style="list-style-type: none"> ・なかよし班で学校のまわりを探索し、秋の自然の魅力を見つける。 	主体性	<ul style="list-style-type: none"> ・行動観察 ・発言内容
	整理・分析 <ul style="list-style-type: none"> ・見つけた生き物・植物について調べ、模造紙にまとめる。 ・前回との変化が分かるようにまとめ方を工夫する。 	コミュニケーション力	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークシート ・行動観察 ・発言内容
KNA第3回	自分たちが見つけたものや夏と秋のちがいを他の班の友だちに紹介しよう。		
	まとめ・表現 <ul style="list-style-type: none"> ・各グループで調べた生き物や植物をポスターにまとめ、ワークショップ形式で発表する。 ・学校の季節の中での自然の変化や豊かさについて振り返るとともに、学校の宝として大切にしていきたいという思いを高める。 	主体性 コミュニケーション力 郷土愛	<ul style="list-style-type: none"> ・成果物 ・行動観察 ・振り返りシート

KNA 第1回 指導案

1 日 時 令和2年7月16日(木)

2 本時の目標

- 初夏の動植物を探し、名前や特徴を調べ、春の自然からの変化を感じ取ったり調べたりする。
- 学校周辺の自然に親しんだり採集をしたりする活動を通して、上黒瀬の自然の魅力を再発見する。

3 児童の実態 第1回

本校の児童の昨年度の異学年での活動、「科学の芽育成講座」についてのアンケート(児童2～6学年対象、6月に学級で実施)の結果は次のようであった。(調査児童数82名) (%)

	よく あてはまる	やや あてはまる	あまり あてはまらない	まったく あてはまらない
(1) いろいろな生き物が見つかっておもしろかったです。	64.6	26.8	7.3	1.2
(2) 生き物について調べて分かったことがたくさんあります。	56.1	35.4	8.5	0
(3) 調べたことを発表したり、他の班の発表をきいたりして勉強になりました。	56.1	34.1	9.8	0
(4) なかよし班で活動して、分かったことがたくさんありました。	53.7	40.2	6.1	0

まず、科学の芽について、「おもしろく、分かったことがたくさんあった。」と肯定的な回答をしている児童が89%で、「調べたことを発表したり、他の班の発表をきいたりして勉強になった。」と肯定的な回答をしている児童の割合が90.2%といずれも高い割合であった。

異学年での活動については、「なかよし班で活動して、分かったことがたくさんある。」と肯定的な回答をした児童の割合は93.9%と他の項目より高い値となっており、異学年での活動が学びの場として有効であったことが分かる。

次に、上黒瀬小学校に対する思いについての結果は以下の通りである。

	よく あてはまる	やや あてはまる	あまり あてはまらない	まったく あてはまらない
(5) 上小には自然がたくさんあります。	87.8	9.8	2.4	0
(6) 上小が好きです。	68.2	28	3.7	0

「上黒瀬小学校には自然がたくさんあります。」の質問に「よくあてはまる」と回答した児童は87.8%で他の項目より高い割合の児童が「よくあてはまる」と回答している。しかも、「上小について好きなところを書きましょう。」という自由記述の質問に対しても、「自然が多いところ、虫がたくさんいるところ。」と、自然の豊かさを本校のいいところとあげている児童が最も多かった。このことから、多くの児童が自然に恵まれた環境に対し、学校のよさととらえていることが分かる。

本校の育てたい資質・能力に関する学習アンケート結果に関しては次の通りである。

(調査児童数83名) (%)

	よく あてはまる	やや あてはまる	あまり あてはまらない	まったく あてはまらない
(3) 自分から進んで発表したり、考えを伝えたりしています。	35.3	48.2	15.3	1.1
(5) 自分の意見や考えをもって学習しています。	50.6	41.2	8.2	0
(9) 授業で、やらなければいけないことや目標に向かって、最後までがんばってやりきっています。	60	31.8	8.2	0

主体性に関する項目では、「自分から進んで発表したり、考えを伝えたりしています。」という質問に対し肯定的に答えた児童は83.1%で他の2つの項目の肯定的割合91.5%よりも低くなっている。しかも、否定的回答をした児童の割合は16.8%と他の否定的回答の割合8.4%の倍となっており、自分の考えを進んで伝えようとする姿勢に課題があることが分かる。

	よく あてはまる	やや あてはまる	あまり あてはまらない	まったく あてはまらない
(4) 話し合う時は、理由をつけて話しています。	25.9	56.5	16.5	1.1
(6) 友だちの意見を、自分の考えとくらべながら聞いています。(にているところ・ちがうところ)	43.5	43.5	10.5	2.4

コミュニケーション能力に関する項目である。話し合いにおいて理由をつけて話ができない児童の割合は18.0%、友達の意見と比較しながら聞いていない児童の割合は13.2%と、話し合いの質をあげていく必要があることが分かる。

	よく あてはまる	やや あてはまる	あまり あてはまらない	まったく あてはまらない
(7) 他の教科で学習したことや、今まで学んだことを使っています。	47.1	44.7	8.2	0

各教科との横断的な学習に関しては、肯定的回答をした児童の割合は91.5%と、各教科の既習事項を生かして考えようとする姿勢は多くの児童がもっていることが分かる。このことから、他教科の学習につながる視点を与えることによって、この度の学習活動への意欲を高めたり、関連のある教科での学習活動が実感をとまったりするものになると考える。

一方で、課題となることが次の事項である。

	よく あてはまる	やや あてはまる	あまり あてはまらない	まったく あてはまらない
(8) 何か分からないことがあったときに本を使って調べています。	31.8	38.8	17.6	11.8

目的意識をもった読書活動に関する質問に、肯定的な回答をした児童の割合は69.8%、否定的な回答をした児童の割合は30.1%で、否定的回答の割合が最も高くなっている。調べ学習に本を活用する機会を増やし、本を使ってどうやって調べるのかということも指導していく必要があると考える。

4 研究主題に迫るための手立て

上記の課題をふまえ、本校の目指す資質・能力を育てるために、以下の3点を柱に具体的な指導の手立てを行う。

(1) 主体的・対話的な学び

- ・上黒瀬小の自然を題材とし、普段何気なく過ごしている学校の自然のよさを再発見するように活動を仕組む。
- ・タブレットなどのICT機器や図鑑などの本を場面に合わせて用い、情報の収集を主体的に、かつ効果的なものにしていく。
- ・調べたことをワークショップ形式で発表する場を設けることで、主体的に行動する力や相手に伝わる表現や話し方が身につくようにする。

(2) 各教科との関連を意識した横断的な学習

- ・1年生は生活科「きせつとあそぼう」「生きものとなかよくなるう」と関連付け、身近な自然に関心をもつとともに、なかよし班での活動の中でみんなで協力し、よりよい人間関係ができるようにする。
- ・2年生は生活科「生きものなかよし大作せん」と関連付け、生き物を探したり捕まえたりする中で、学校や生き物への親しみや愛着をもつことができるようにする。
- ・3年生は理科の「春の生き物」の学習で身の回りの植物や動物を観察している。相違点や類似点を探しながら観察することを学習しているので、そのことを生かす。
- ・4年生は理科の「季節と生き物」の学習に結び付け、季節の変化と見られる生き物との関係を意識して探索ができるようにする。
- ・5年生は国語の「資料を見て考えたことを話そう」の単元の学習につながるように、資料を読み考えをまとめたり、発表内容の構成を考えたりすることを中心となって行うようにする。
- ・6年生は理科の「生き物と食べ物・空気・水」の単元で食物連鎖の学習をする。学校の周りの生き物の観察をする中で、植物と生物のつながりや、「食べる・食べられる」の関係を意識できるようにする。

(3) 異学年での活動

- ・異学年で活動を進めていくことで、各学年に役割をもたせる。
- ・高学年はなかよし班のリーダーとして活動をリードしていくとともに、ワークショップ形式の発表においては、お手本となるようにする。高学年にとっては、発表の仕方や伝わる発表を考えるとともに、詳しく説明することで自分たちの理解もより深めることができると考える。
- ・中学年にとっては、発表の仕方や話し合いの進め方を学ぶ場となり、低学年にとっては、楽しく活動する中で学び方を学ぶ場となるようにする。

5 本時の学習展開

主な学習活動	指導上の留意点 (○)	評価規準 (評価方法) (★)
<p>1 上黒瀬の自然観察活動の趣旨と学習の流れをつかむ。 【体育館】</p>	<p>○なかよし班の班長を中心に全員で役割をもって行うことを確認する。</p>	
<p>2 本時の学習課題を確認する。</p>	<p>めあて：上小の自然のおたからを見つけよう。</p>	
<p>3 自然の宝さがしのルールを確認する。</p>	<p>○学校で見た植物や虫を想起させる。 ○異学年交流・学びの場とする。 ○上黒瀬小学校の自然についてよいと思っていることを尋ねる。 ○学習の流れを板書等で明記しておく。 ○危険な生物などは大きく掲示し、安全に活動できるようにする。 ○見つけたものは採集したりタブレットで写真をとったりし、マップに印をしながら探索をすすめる。</p>	
<p>4 班ごとに場所を分かれて探索をする。 【校庭】</p>	<p>○図書室に行って調べたり、タブレット等を使って調べたりする方法については各班で相談する。指導者は、事前に調べる方法について考えておく。</p>	
<p>5 採集した生物・植物について図書室等で調べ、まとめる。 【各教室】 本・タブレット等 【主体的・対話的な学び】</p>	<p>○図書の本については、図書室の本のみでは足りない可能性があるため、事前に図書館で関係図書の貸し出しを依頼しておく。 ○模造紙等に調べたことを付箋を使ってまとめる。</p>	<p>★目指す資質・能力の児童の具体的な姿による。(話し合いの様子・ワークシート・ふり返り)</p>
<p>6 班ごとに収集した生物・植物を整理・分析してまとめる。</p>	<p>○まとめ方については、各学年、他教科での学びの視点を生かした気づきを出せるように指導者は声かけを行う。</p>	
<p>7 まとめたことを生物班同士、植物班同士で発表しあう。 【体育館】</p>	<p>○生物班同士、植物班同士で発表しあい、発見や違いが見つけられるようにする。</p>	
<p>8 全体で感想交流する。</p>	<p>○指導者は、上黒瀬小学校の自然の魅力について再発見の視点で発表をまとめられるようにする。 ○本時の学びを自己評価し、次の学習への意欲をもつことができるようにする。</p>	

6 板書計画

7/16

㊦

上小の自然の宝さがしをしよう。

㊦

上小には、今まで知らなかった生き物や植物がたくさんいることが分かった。

学習の流れ

注意事項

危険生物の写真

発表した児童の
ワークシート

発表した児童の
ワークシート

発表した児童の
ワークシート

KNA 第2回 指導案

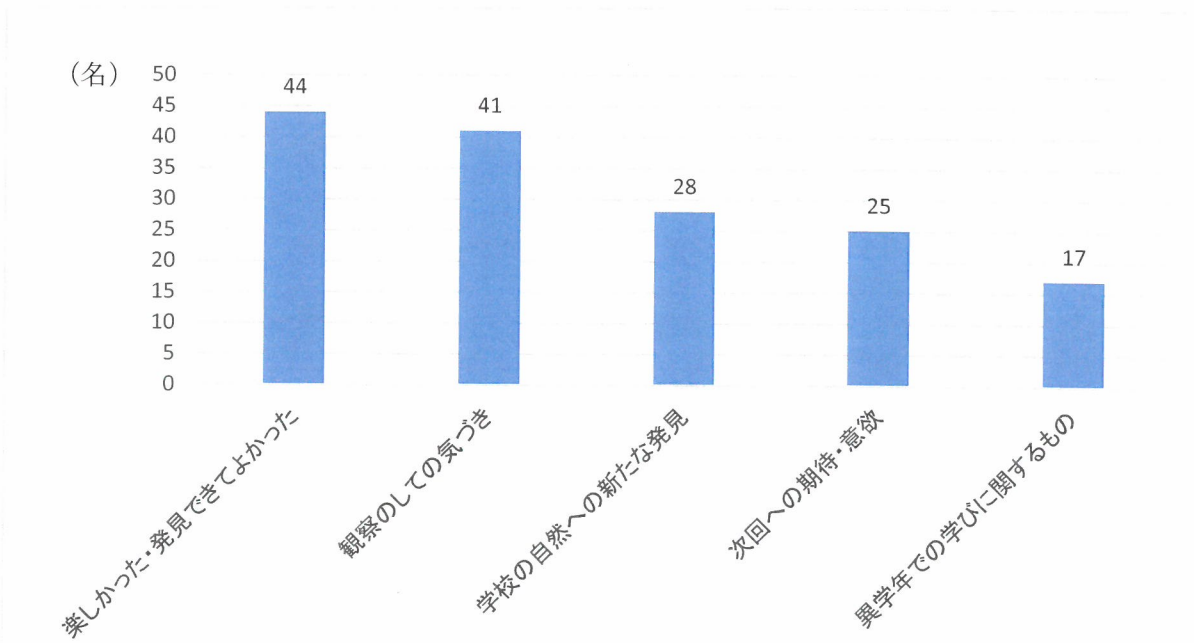
1 日 時 令和2年10月28日(水) 第5・6校時

2 本時の目標

- 初秋の動植物を探し、名前や特徴を調べ、夏の自然からの変化を感じ取ったり調べたりする。
- 学校周辺の自然に親しんだり採集をしたりする活動を通して、上黒瀬の自然の魅力を再発見する。

3 児童の実態 第2回

KNA第1回のふり返しシート(調査児童数95名)の内容をすべて分析した結果は以下のとおりである。



「虫を探して楽しかった。」「みんながいろいろ見つけていてうれしかった。」というように、活動が楽しかったという児童が44名と全体で最も多いふり返しとなった。そして、観察の視点でふり返しを行っている児童が41名と全体の43.1%を占めた。気づきとしては「かさが大きいキノコがすごかった。」「どんぐりが小さくて、くりのみはフワフワしていた。」「セージという植物がソーセージのかおりがしたからいいにおいだった。」というような、形や手触り、においに関するような、観察したもの自体に関する気づきから、「もっと草むらを探していれば、もっとたくさんのお虫がつかまえられるのかなと思います。」「場所によって植物の種類が変わっていた。」「だいたいキノコが木の近くにあることが分かった。」というように、探索して見つけたものと場所を結びつけた気づきまであり、中学年以上になると、気づきの質も上がることが分かった。

次に、29.4%の児童が「学校にはないと思っていた植物があって楽しかった。」「自分の知らない植物がいっぱいあって、初めて知れてよかった。」というように、学校の自然への新たな発見をしていた。また、次の活動への期待や意欲がみられる振り返りを書いている児童が25名で、全体の26.3%いた。その中には、「次はまだいっていないところをまわりたい。」「次はもっとつかまえたい。」という活動への意欲がみられるものだけでなく、「秋は虫がどうなっているのか知りたい。」というように、季節の変化の視点で活動を見ていることが分かるものもあった。また、6年生の中には、「リーダーという責任がおもかったです。次は下の学年の力もかりてがんばりたい。」「班長としてまとめることができたけど、もっと声をかけていきたい。」「次はもっといい発

表をしたい。」と、班長としての振り返りをしているものがあり、なかよし班での高学年としての役割を意識しながら活動を行っていることが分かる。

最後に、全体の17.8%の17名が、異学年の学び、もしくは班同士での学びに関する振り返りをしていた。内容は「他の班の発表を聞くと、自分の班で見つけていない生き物がいて、もっと生き物のことが分かった。」「気づきのまとめ方が上手な班があったからまねしたい。」「虫をつかまえているところをみて、すごいと思った。」など、他の班から学んだり、他学年から学んだりしていることが分かる。

また、1名の児童のふり返りでは、「理科で勉強したとおり、草むらにいました。多分、草を食べるから。」と書かれており、他教科での学習したことをKNAでの活動に生かしていたことが分かる。

以上のことから、KNAの目指す、「異学年での学び、主体的な学び、各教科との関連を生かした学び」に向けての手立てが有効であったと言える。KNA第2回では、「活動をして楽しかった。」という感想にとどまらないよう、異学年での学び、他の班からの学びとして意味のある活動になるように手立てを行っていきたい。

4 研究主題に迫るための手立て

KNA第1回での児童の実態とKNA実施後に挙げられた課題をふまえ、以下のような具体的な指導の手立てを行う。

(1) 主体的・対話的な学び

- ・班ごとに事前に作戦会議の時間をとり各班でのめあてを設定する。この際、前回の学びをふり返り、KNAの大きなめあてを再確認するため、リモートでの導入を行う。
- ・タブレットなどのICT機器や図鑑などの本を場面に合わせて用い、情報の収集を主体的に、かつ効果的なものにしていく。
- ・整理・分析の時間が意味のある活動になるよう、まとめには思考ツールを使う。前回まとめたものを返し、変化を意識したまとめができるようにしていく。

(2) 各教科との関連を意識した横断的な学習

- ・1年生は生活科「きせつとあそぼう」「生きものとなかよくなるよう」と関連付け、身近な自然に関心をもつとともに、なかよし班での活動の中でみんなで協力し、よりよい人間関係ができるようにする。
- ・2年生は生活科「生きものなかよし大作せん」と関連付け、生き物を探したり捕まえたりする中で、学校や生き物への親しみや愛着をもつことができるようにする。
- ・3年生は理科の「春の生き物」の学習で身の回りの植物や動物を観察している。相違点や類似点を探しながら観察することを学習しているので、そのことを生かす。
- ・4年生は理科の「季節と生き物」の学習に結び付け、季節の変化と見られる生き物との関係を意識して探索ができるようにする。
- ・5年生は総合的な学習の時間で稲を育てる中で、植物と虫や生き物のつながりを学習している。探索する中で見つかる生き物には何らかのつながりがあることを発見させたい。
- ・6年生は理科の「生き物と食べ物・空気・水」の単元で食物連鎖の学習をする。学校の周りの生き物の観察をする中で、植物と生物のつながりや、「食べる・食べられる」の関係を意識できるようにする。

(3) 異学年での活動

- ・異学年で活動を進めていくことで、各学年に役割をもたせる。
- ・高学年はなかよし班のリーダーとして活動を引っ張っていくとともに、ワークショップ形式の発表においては、お手本となるようにする。高学年にとっては、発表の仕方や伝わる発表を考えるとともに、詳しく説明することで自分たちの理解もより深めることができると考える。
- ・中学年にとっては、発表の仕方や話し合いの進め方を学ぶ場となり、低学年にとっては、楽しく活動する中で学び方を学ぶ場となるようにする。

5 本時の学習展開

☆導入として事前に前回の活動のふり返りと各班でのめあての設定を行っておく。

主な学習活動	指導上の留意点 (○)	評価規準 (評価方法) (★)
<p>1 本時の学習課題を確認する。 (各教室で)</p>	<p>○なかよし班の班長を中心に全員で役割をもって行うことを確認する。 ○学習の流れを板書等で明記しておく。</p>	
<p>(全体のめあて) 夏の自然との変化を見つけよう。 (各班のめあて)</p>		
<p>2 班ごとに場所を分かれて探索をする。(校庭)</p>	<p>○見つけたものは採集したりタブレットで写真をとったりし、マップに印をしながら探索をすすめる。</p>	
<p>3 各班ごとに収集した生物・植物を整理・分析してまとめる。(各教室) 【主体的・対話的な学び】</p>	<p>○図書室に行って調べたり、タブレット等を使って調べたりする方法については各班で相談する。 ○図書の本については、図書室の本のみでは足りない可能性があるため、事前に図書館で関係図書の貸し出しを依頼しておく。 ○模造紙等に調べたことを付箋を使ってまとめる。 ○まとめ方については、各学年、他教科での学びの視点を生かした気づきを出せるように指導者は声かけを行う。</p>	<p>★目指す資質・能力の児童の具体的な姿による。(話し合いの様子・ワークシート・ふり返り)</p>
<p>4 各班でふりかえりを行う。</p>	<p>○本時の学びを自己評価し、次の学習への意欲をもつことができるようにする。</p>	

KNA 第3回 指導案

1 日 時 令和2年11月11日（水）第5・6校時

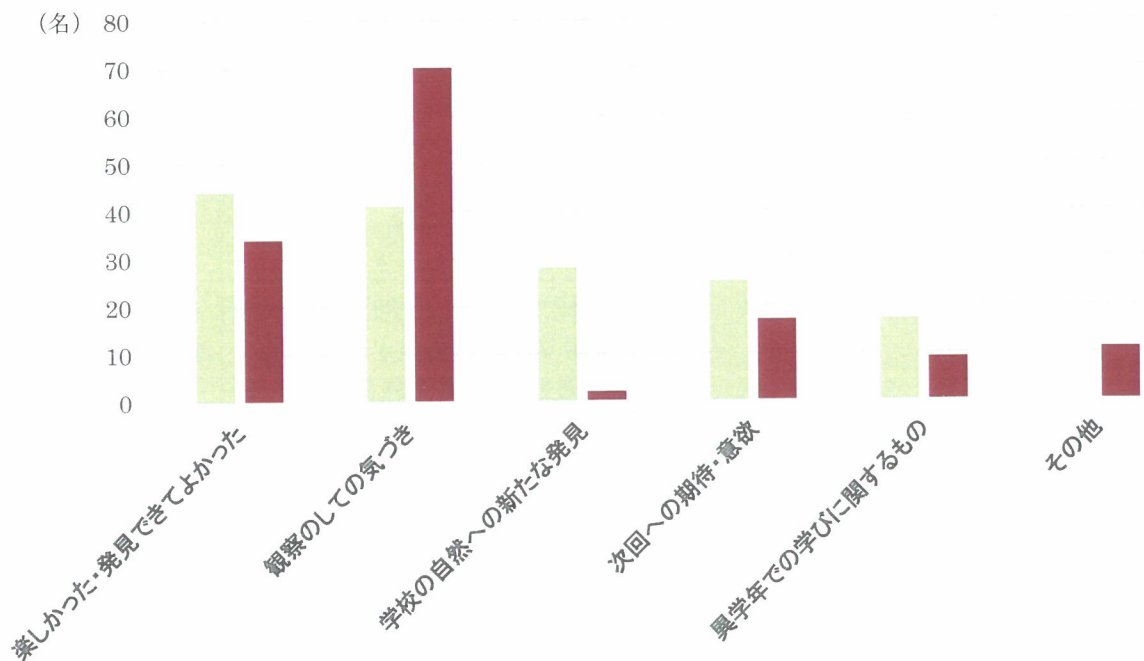
2 本時の目標

- 自分たちが夏と秋に見つけた生き物や植物や、夏と秋のちがいを他の班の人に紹介する。
- 学校周辺の自然について他の班が発表したことを聞く活動を通して、上黒瀬の自然の魅力を再発見する。

3 児童の実態 第3回

KNA第2回のふり返しシート（調査児童数96名）の内容をすべて分析した結果は以下のとおりである。

KNAのふり返し内容分析結果



KNA第2回では、全体のめあて「夏との自然の変化をみつけよう」とともに、各班ごとでより主体的に活動できるように自分の班のめあてを設定させた。このことが有効だったと思われるのは、70名が夏から秋にかけての変化や違いについてふり返しで書いている点である。見つけたものの色や数に関する変化や、今の時期の気温と結びつけて変化に関する理由を考えているものなど、全体のめあてを意識して活動できたことが分かる。加えて、探索時間を長く設定したので、今まで行ったことのないところをまわり、たくさんのものを採取することができたというような気づきもいくつかあった。

そして今回注目すべきものが、「その他」にあたる11名分のものである。

「KNAの活動を通して、生き物を見つける力もアップしたし、まとめる力もアップしました。」
「KNAのおかげで観察力やみんなの意見をまとめる力などが少しついたような気がします。あと、知ったことがいっぱいありました。」というように、KNAの活動を通してついた力について書いている児童が4名いた。また、「理科の授業で調べたものを見つけることができた。」「理科で習ったように、バッタやコオロギは草のあるところにおいて、コンクリートのところや草のはえていないところにはいなかった。」というように、他教科での学習が生かされている記述が4名あつ

た。また、「虫をつかまえるためにいろいろな工夫をした。」「この活動を企画してくれた先生方には感謝です。」など、自分の活動をふり返ったものや、感謝の気持ちを表したものなどが3名であった。

異学年での学びに関するものでは、「今回は班のみんなで協力するのがうまくできるようになった。」「みんなでいろいろ手分けして見つけられたからよかった。」「虫がさわれないときにとっけてくれてうれしかった。」「何かが飛んだ時には他の人に伝えた。」など、協力して活動できたことが分かる記述が見られた。また、班の中だけにとどまらず、植物班・生き物班同士で「・・・に～があったよ。」と、見つけたものを教え合う姿も活動中に見られた。

今回の活動では、全体のめあてや班のめあてを意識して活動できた児童が多かったものの、まとめの活動において、採取した多くのものを本で調べて名前を特定するのが難しかったということが課題として挙げられた。実際に、出来上がった成果物も班によって大きく差があり、KNA第3回において、1時間分の準備時間の中で、どのようにまとめ発表するかということに手立てが必要と思われる。

4 研究主題に迫るための手立て

KNA第2回での児童の実態とKNA実施後に挙げられた課題をふまえ、以下のような具体的な指導の手立てを行う。

(1) 主体的・対話的な学び

- ・KNA第2回の全体のめあてと自分たちの班で設定しためあてに沿って、自分たちが2回の探索で見つけたものや気づいたことを紹介するようにする。
- ・タブレットなどのICT機器や図鑑などの本を場面に合わせて用い、情報の収集を主体的に、かつ効果的なものにしていく。
- ・整理・分析の時間が意味のある活動にするために、前回まとめたものを返し、変化を意識したまとめができるよう工夫する。

(2) 各教科との関連を意識した横断的な学習

- ・1年生は生活科「きせつとあそぼう」「生きものとなかよくなるよう」と関連付け、身近な自然に関心をもつとともに、なかよし班での活動の中でみんなで協力し、よりよい人間関係ができるようにする。
- ・2年生は生活科「生きものなかよし大作せん」と関連付け、生き物を探したり捕まえたりする中で、学校や生き物への親しみや愛着をもつことができるようにする。
- ・3年生は理科の「春の生き物」の学習で身の回りの植物や動物を観察している。相違点や類似点を探しながら観察することを学習しているので、そのことを生かす。
- ・4年生は理科の「季節と生き物」の学習に結び付け、季節の変化と見られる生き物との関係を意識して探索ができるようにする。
- ・5年生は国語の「資料を見て考えたことを話そう」では、自分の考えが明確に伝わるように話の構成を考えて資料と関係付けて話すことができるようにすることを学習する。今回の発表で班で作った模造紙と関係付けながら説明できるようにしたい。
- ・6年生は国語の「話し合って考えを深めよう」では、互いの意見を分類したり整理したりして計画的に話し合いを広げたりまとめたりする活動を行う。他学年の意見をまとめながら、班での発表につなげていけるようにする。

(3) 異学年での活動

- ・異学年で活動を進めていくことで、各学年の実態や発達に応じた役割をもたせる。
- ・高学年はなかよし班のリーダーとして活動を引っ張っていくとともに、ワークショップ形式の発表においては、手本となるようにする。高学年にとっては、発表の仕方や伝わる発表を考えるとともに、詳しく説明することで自分たちの理解もより深めることができると思う。
- ・中学年にとっては、発表の仕方や話し合いの進め方を学ぶ場となり、低学年にとっては、楽しく活動する中で学び方を学ぶ場となるようにする。

5 本時の学習展開

主な学習活動	指導上の留意点 (○)	評価規準 (評価方法) (★)
<p>1 本時の学習課題を確認する。 (各教室で)</p>	<p>○自分たちが作った2回分の模造紙を見て、まとめた内容を振り返る。 ○学習の流れを板書等で明記しておく。 ○本時はKNAのまとめの活動であることをおさえる。</p>	
<p>自分たちが見つけたものや夏と秋のちがいを他の班の友だちに紹介しよう。</p>		
<p>2 各班ごとに収集した生き物・植物や、見つけた夏と秋の変化や違いを発表できるようにまとめ、発表の練習をする。(各教室) 【主体的・対話的な学び】 【異学年での活動】</p> <p>3 班ごとに発表を行う。 ワークショップ形式で行い、一定時間でどんどん移動していく。(体育館)</p> <p>4 全体でまとめを行う。</p> <p>5 ふりかえりを行う。</p>	<p>○実物のない班も多いため、絵や写真を効果的に使いながら、視覚的にも分かりやすい提示の仕方を考える。(写真については2回分のKNAで撮りためたものを事前に印刷しておく) なお、発表内容については、第2回の時のめあてをふまえ、自分たちが最も紹介したい生き物(植物)や夏と秋の違いなどにしぼって発表する内容を考える。 ○まとめ方については、各学年、他教科での学びの視点を生かしたものになるように指導者は支援する。 ○発表の仕方については、高学年を中心に、それぞれが何らかの役割をもって行えるようにする。例えば、「自分たちのはっけんしたお宝ベスト3」を発表するなど、どの学年も活躍できるようにする。 ○他の班の発表から分かったことをワークシートにメモする。 ○他の班の発表を聞いて分かったことがメモできるようにワークシートを用意する。 ○このKNAの活動の目標をふりかえらせ、2回分のKNAで見つけた物を上小自然お宝マップに提示できるようにする。(パワーポイントを活用) ○今後のKNAでやってみたいことや今年度の活動では足りなかったことを出させ、来年の学習への意欲をもつことができるようにする。</p>	<p>★目指す資質・能力の児童の具体的な姿による。(話し合いの様子・ワークシート・ふり返し)</p>